

令和 2 年 5 月 28 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02361

研究課題名(和文) アメリカ飛行文学の系譜とその特徴

研究課題名(英文) A Study of American Aviation Literature

研究代表者

石原 剛 (Ishihara, Tsuyoshi)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：00368185

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：これまで顧みられることの少なかった空や飛行という観点からアメリカ文学の姿を問い直した研究である。人類初の動力飛行を実現し、その後も世界に冠たる航空大国として君臨し続けてきたアメリカ合衆国においては「飛行文学」とでも呼べるような文学ジャンルが存在し、様々な形で多くの読者を獲得してきたが、本研究では、中でもアメリカ最大の英雄の一人であるチャールズ・リンドバーグの著作や、その妻アン・モロウ・リンドバーグの飛行文学に注目し、リアリズム、ジェンダー、暴力、帝国主義といった様々な角度からアメリカ飛行文学の特徴を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで国内外でほとんど顧みられることの少なかったアメリカ飛行文学の特徴を一定程度明らかにしたこと。特に平和と暴力の相克が明らかにこの文学ジャンルを特徴づけていたことを実際の作品を例に示すことで、科学技術の発展による平和と破壊の相矛盾する問題に切り込んだこと。また200年を超える時間軸でアメリカ文学と空の関係を論じた研究書『空とアメリカ文学』(全10章、研究代表者による編著)を世に問うことで、飛行文学研究の新たな地平を切り拓いたこと。

研究成果の概要(英文)：This project analyzed the relationship between American literature and aviation.

Although it has not been fully examined in academia, the United States, the world's aviation superpower, developed a literary genre called "aviation literature." This study analyzed the characteristics of American aviation literature, in particular, the non-fiction writings of Charles A. & Anne Morrow Lindbergh, discussing the significant issues of gender, realism, violence, war, and the US imperialism.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ文学 飛行文学 リンドバーグ アメリカ文化 アン・モロウ 空 ノンフィクション 飛行機

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アメリカ航空文化史研究の豊かな蓄積が物語るように、アメリカ文化における飛行の重要性が認識されてきたにもかかわらず、こと文学に関しては、飛行との関係性という観点から論じられることは非常に稀であった。本研究は、アメリカ飛行文学研究という明確な主題の下、その実相を明らかにしようとする初めての学問的取り組みであり、これまで海や陸、そして船、自動車、鉄道といった分野に偏りがちであった「移動」の視点からのアメリカ文学研究の穴を埋める試みでもある。世界の国にも増して「飛行」という近代の営為がその文化に深く浸透してきた航空大国であるアメリカにおいて、「文学」は「飛行」といかなる関係を取り結んできたのか？この素朴な疑問を解く手がかりを見つけることが本研究の出発点といえる。

2. 研究の目的

本研究は、豊かな作品が連なるアメリカ飛行文学の系譜とその特徴を明らかにする試みである。世界最大の航空大国であるアメリカには他国を凌駕する飛行文学の系譜が存在するが、これまでこの分野を手掛けた本格的な研究は成されてこなかった。そこで本研究では飛行をテーマとしたアメリカ文学作品を掘り起こし、飛行や航空といった視点から諸作品の読み解きを行う。特に飛行家自身の手による自伝的飛行文学などが主な分析対象となる。夢の道具から人類最大の殺戮手段へと変貌を遂げた「飛行」という行為に着目することで、最終的には、夢と挫折、欲望と暴力、環境や科学といった問題が複雑に絡み合うアメリカ文学の一側面に光をあてることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、共に飛行家であるチャールズ・A・リンドバーグとその妻、アン・モロウ・リンドバーグの飛行体験を綴ったノンフィクション作品の分析を中心に進めた。その際、両者が残した膨大な量の書簡、日記、また二人の飛行を報じた新聞・雑誌での報道、また日本に飛来した際に日本側が残した公文書など、作品を中心としながらも様々な一資料を検討することで、両者の飛行文学の特質をあぶり出すこととした。また、両者の作品は、同時代のアメリカにおける飛行機のイメージや航空熱などと密接に関わるため、飛行機や航空が重要な役割を果たしている大衆文化作品や、それを分析した航空文化史研究の成果を参照しつつ、分析を進めた。200年に及ぶ飛行や空とアメリカ文学との関係を研究代表者個人のみで網羅的に明らかにすることは困難であることから、他のアメリカ文学研究者の助力を得つつ、共編著という形でより網羅的な研究成果を発表した。

4. 研究成果

(1) テキサス大学図書館を中心としたアメリカでの現地調査を短期間(2016年8月)ながら実施することが出来、日本では入手が難しい飛行文学関連の一次資料の踏査を実施した。特に、将来のアメリカの航空界を担う子どもたちの育成を目指す中、学校教育の場でいかにして航空界の英雄の物語が利用されていたのかといった問題について検討を行った。具体的には、大戦間期のアメリカで発行された中高の文学教科書を検証し、そこに掲載されている航空関連の物語を収集することができた。

(2) アメリカ飛行文学の金字塔ともいえる Lindbergh の自伝的回想記、*The Spirit of St. Louis* (1953年)を精読し、そこに刻み込まれた飛行を巡る様々なアメリカの物語を掘り上げた。同作は、リンドバーグが人類初のニューヨーク―パリ間無着陸横断飛行の達成に至るまでの経験を綴ったピューリッツァー賞受賞作だが、特に、本作に見られる問題群、例えばフロンティアの物語の中に自己を位置づけようとする態度、飛行という行為に色濃く反映された宗教性、地上に展開する世界への空間認識、飛行に伴う時間感覚のズレ、さらには、飛行機というアメリカの発明品で新世界文明の中心地ニューヨークから旧世界文明の中心地パリに時空を超えて乗り込んでいくことの文化的意味などについて検討し、論文を完成した。同成果を成蹊大学で開催された「マニフェスト・デスティニーの情動的効果と21世紀惑星的想像力」をテーマとした研究会(2017年3月)で口頭発表した。

(3) 2018年5月に東京女子大学で開催された第90回日本英文学会全国大会で、空とアメリカ文学の関係を探ったシンポジウム「イカロスを追いかけて 空をめぐる文学的想像力」を実施し、シンポ統括者として自身を含めた四名の発表者と同テーマに関する研究発表と意見交換、ならびに来場者との質疑応答を行った。同シンポジウムでは、エドガー・アラン・ポー、マーク・トウェイン、サンテグジュペリ、アン・モロウ・リンドバーグの諸作を中心に、主にアメリカ作家たちの(サンテグジュペリを除く)作品に表れる飛行や空のモチーフを詳細に分析した。

(4) 編著者として研究書『空とアメリカ文学』(彩流社、2019年)を出版。研究代表者を含め10名の研究者を動員して、同書では19世紀前半から21世紀におよぶ200年におよぶアメリカ文学の歴史の中で主に「空」と「飛行」がいかに重要な足跡を残していたかについて探った。扱った作家はエドガー・アラン・ポー、ハーマン・メルヴィル、マーク・トウェイン、ウィリアム・

フォークナーといったアメリカを代表する作家たちに加え、アン・モロウ・リンドバーグやヒューゴー・ガーンズバック、レイモンド・カーヴァーやリチャード・パワーズといった紀行やSF、20世紀後半以降のアメリカ現代文学の旗手たちである。これだけの多岐に亘る文学ジャンルを200年に及ぶ長い時間軸で、空とアメリカ文学の関係を扱った研究書は内外にも存在せず、同分野における重要な研究成果となった。

(5) 前掲書『空とアメリカ文学』の序章として、アメリカ文化における航空史をまとめる論考を発表し、アメリカにおける航空文化の発展を文化史的に概観した。内容としては、飛行機と大統領選挙の関係、気球熱、ライト兄弟、飛行機熱の時代、第二次大戦と飛行機の関係、ジェットの時代を扱った。また、飛行という観点からみたアメリカ文学・文化研究を概観し、代表的な論考について整理分析を行った。

(6) 前掲書『空とアメリカ文学』の第7章「空を飛ぶということ アン・モロウ・リンドバーグの東アジア紀行」として、1930年代のアン・モロウによる東アジア飛行のベストセラー紀行『翼よ、北に』の詳細な分析を実施した。内容としては、同作と同時代に盛り上がりを見せた飛行機熱の時代状況との関係、現実と非現実の相克、女性が飛ぶことで直面する葛藤や解放の問題、日本への飛来と当時の日米関係との繋がり、飛行機が逃れることの出来ない暴力の影など、多岐に亘る観点から精査した論考を著した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石原剛
2. 発表標題 空という快樂－アン・モロウ・リンドバーグの飛行と東アジア
3. 学会等名 第90回日本英文学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 西山けい子、藤田義孝、有馬容子、石原剛
2. 発表標題 イカロスを追いかけて 空をめぐる文学的想像力
3. 学会等名 第90回日本英文学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 石原剛
2. 発表標題 翼の福音、あるいは呪われた凶器 リンドバーグと飛行の物語
3. 学会等名 主催：科学研究費・基盤研究（B）「マニフェスト・デスティニーの情動的効果と21世紀惑星の想像力」（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 石原 剛	4. 発行年 2019年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 320
3. 書名 空とアメリカ文学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----